



TITLE:

法令

AUTHOR(S):

CITATION:

法令. 經濟論叢 1928, 27(4): 615-616

ISSUE DATE:

1928-10-01

URL:

<https://doi.org/10.14989/129674>

RIGHT:

京都帝國大學經濟學會

經濟叢論

第四號

第七十二卷

昭和三年十月一日發行

論叢

財産より生ずる無形所得の課税

法學博士

神戸 正雄

形式社會學概念

文學博士

米田 庄太郎

租税負擔及び經費の國際比較

經濟學博士

汐見 三郎

時論

老齡船の運用とその處分

經濟學博士

小島 昌太郎

說苑

明治初年に於ける大阪通商會社

經濟學士

菅野 和太郎

學と實踐

經濟學士

福井 孝治

雜錄

大阪の文化と造幣局

經濟學博士

本庄 榮治郎

私營質屋業の概況

經濟學士

楠見 一正

大阪市の人口増加に就て

經濟學士

武田 長太郎

法令

鐵夫勞役扶助規則中改正

法令

鑛夫勞役扶助規則中改正

內務省令第三十號(昭和三年九月一日)

第五條 鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ

於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ從事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第七條 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラズ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ従事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ第一項ノ規定ニ拘ラズ午後十二時迄就業セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ午後十一時ニ於テ就業セシムルトキハ午後十二時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ鑛夫ヲ三組以上ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ従業セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限

リ第一項ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得

第七條ノ二 坑内ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入りタル時ヨリ坑口ヲ出デタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑及出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルト

キハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑内ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第十一條 鑛業權者ハ變災若ハ變災ノ虞アル爲メ又ハ避ケベカラザル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第五條第一項、第六條及第六條ノ二第一項ノ規定ニ拘ラズ就業時間ヲ延長シ第七條第一項乃至第三項及第八條乃至第十條ノ規定ニ拘ラズ就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應ズル爲メ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケルコトヲ要セズ

前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ様式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ届出ヅベシ

第十一條ノ二 鑛業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ズ

鑛業權者ハ主トシテ薄層ヲ掘探スル石炭坑ニ就業スル鑛夫ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ依ラザルコトヲ得

第三十五條 鐵業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鐵夫ニ付始業及終

業ノ時刻並休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スベシ

第七條 鐵業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ

午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ鐵夫ヲ

二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 鐵業權者ハ變災又ハ變災ノ虞アル爲急迫ノ必要アル

場合ニ於テハ第六條、第六條ノ二第一項及第七條乃至第十條

ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

鐵業權者ハ坑内ニ於テ就業スル鐵夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出

坑ノ時刻並休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スベシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ

前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑

ノ開始及終了ノ時刻トス

鐵業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル

者及所定ノ出坑時刻又ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付

様式第五號ニ依リ記錄スベシ

前項ノ記錄ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スベ

シ

第三十八條中「第十四條」ノ上ニ「第十一條第二項」ヲ加フ

附 則

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

鐵夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七

條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セズ

様式第四號(書式略)

〔參照〕

様式第五號(書式略)

大正五年^{八月}三月農商務省令第二十一號鐵夫
勞役扶助規則抄錄

第七條 鐵業權者ハ十六歳未満ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ

午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス但シ鐵夫ヲ

二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十一條 鐵業權者ハ變災又ハ變災ノ虞アル爲急迫ノ必要アル

場合ニ於テハ第六條、第六條ノ二第一項及第七條乃至第十條

ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

鐵業權者ハ避クヘカラサル事由ニ因リ臨時必要アル場合ニ於

テハ鐵山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第六條、第六條ノ

二第一項及第七條乃至第十條ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコ

トヲ得

第一項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滞ナク其ノ事由

ヲ具シ鐵山監督局長ニ届出ツヘシ

第三十五條 鐵業權者ハ始業及終業ノ時刻並休憩及休日ニ關ス

ル事項ヲ見易キ場所ニ揭示スベシ

第三十八條 雇傭勞役規則ニ違背シタル探掘權者、第十四條、

第十五條、第十六條第一項、第三十一條第一項第二項若ハ第

三十二條ノ規定ニ違反シタル者、正當ノ事由ナクシテ第三十

四條ノ診斷若ハ檢案ヲ爲サシメサリシ者又ハ第三十一條第三

項ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ従ハサル者ハ百圓以下ノ罰金

又ハ科料ニ處ス